

(一般質問)

質問日	令和 7 年 12 月 5 日 (金)			質問方式	分割方式		
質問順位	2	会派名	市民クラブ	議席番号	12	氏名	石津 陽子
表 題	質 問 内 容						答弁者の職名
1 公園の使用禁止の遊具の今後について	<p>令和 5 年度に「都市公園の整備と維持管理等に関する事務の執行」をテーマとして、包括外部監査が実施され、「ハザード 3」と判定された 429 件の遊具の危険除去が出来ていないと指摘を受けた。</p> <p>今年の夏に一斉に使用禁止措置が行われ、現在、使用禁止のテープが張られたままの遊具がある公園が多数存在し、市民の間には不安が広がっている。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 包括外部監査における、「多くの遊具でハザードの除去が出来ていない」「このままでは公園管理者としての管理責任を果たしていないことになりかねない」という指摘を市はどのように受け止めたのか。また、どのような改善姿勢で臨み、今後の対応はどうか。併せて、ハザード 2 以下の遊具や老朽化の進む遊具のチェック体制を強化すべきと考えるがどうか。</p> <p>(2) ハザード 3 の遊具について、使用禁止の表示があるだけでは説明不足である。修繕の予定や使用再開時期など、今後遊具がどうなっていくのかを市民に分かりやすく情報提供すべきと考えるがどうか。</p>						中村花みどり 担当部長
2 都市公園の新たな活用と民間との連携の推進について	<p>近年、国の方針として、民間の手法を積極的に取り入れた公園運営の仕組みが推し進められている。行政が単独で維持する従来の仕組みから、地域や民間と協働して“育てていく公園”へと転換していく流れが全国的に広がっている。都市公園の利活用を一層進めることが求められる。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 新たな切り口での公園整備の在り方が求められていると考える。本市における都市公園の利活用の現状と課題、また今後の整備の在り方はどうか。</p> <p>(2) マルシェやイベントが定期的に行われ賑わいがある公園は一部にとどまる。 Park - PFI をはじめとする民間との連携についての見解はどうか。</p> <p>(3) 公園へのキッチンカーなどの出店をより柔軟に受け入れるための環境整備を進めるべきと考えるがどうか。</p>						中村花みどり 担当部長
3 はますぐヘルパーのさらなる充実について	本市では、子育て家庭を支援するための事業として「はますぐヘルパー」を実施している。令和 6 年度からは対象が 3 歳未満まで広がり、さらに利用上限時間も						野田こども家庭部長

*二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表題	質問内容	答弁者の職名
	<p>増えるなど、制度の大きな前進があった。私が独自に行った「はまくヘルパーに対するアンケート」では195件の回答を得た。</p> <p>その結果を基に、以下伺う。</p> <p>(1) 現行制度では、はまくヘルパー利用中は保護者の在宅が条件となっており、外出は認められていない。現時点の枠組みをさらに進化させ、利用者の現実に寄り添った制度に発展させていくべきと考える。保護者の外出を一定条件のもとで認めるなど柔軟な仕組みを導入してはどうか。</p> <p>(2) 制度をより知ってもらうため、SNSや「はままつ子育て情報サイト・ぴっぴ」、公式LINEなどを活用し、デジタルでのリマインドや申込み導線を強化するための広報が必要と考えるがどうか。</p>	
4 生体移動展示販売の規制強化について	<p>近年、動物の愛護及び管理に関する法律の改正及び基準省令の運用により、動物の移動販売に厳しい規制が導入されたものの、全国的にも静岡県内においても販売会が開催されてきた。</p> <p>このような中、静岡市においては令和5年度から、静岡県においては今年度から、展示中に動物を収容するケージの大きさや犬猫を運動させるためのスケジュール等、動物の収容に関する基準について詳細な資料を求め、基準を満たさない場合は第一種動物取扱業や犬猫等販売業の登録を拒否する等の対応を行っている。</p> <p>動物愛護の観点からも、また法令遵守・市民からの信頼確保の観点からも、本市においても同水準の厳格な審査体制を整備することが不可欠と考える。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 本市で動物の移動販売を行う事業者から第一種動物取扱業登録等の申請があった場合、動物の収容に関する基準をどのように確認しているか。</p> <p>(2) 登録後に行われる現地調査において、提出された書類の記載内容の実地確認をどのように行うのか。また、申請内容と相違があった場合の対応方法はどうか。</p> <p>(3) 浜松市総合産業展示館で生体移動販売が行われているが、施設管理者としてその実態をどのように捉えているのか。また、施設利用にあたっての対応についてはどうか。</p>	<p>板倉保健所長</p> <p>〃</p> <p>北嶋産業部長</p>
5 動物園の今後の企画展と公共施設におけるタイアップイベントの開催について	<p>爬虫類展「浜松レプタイルZOO vol.1」が11月1日から3日にかけて、浜松市動物園の館内スペースを使って開催された。</p> <p>開催中始終、長蛇の列が途切れない盛況ぶりで、動物園の駐車場の入口でも渋滞が発生するほどの賑わいで</p>	

表題	質問内容	答弁者の職名
	<p>あった。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 動物園としては前例のない展示だが、入園者数は大幅に増加し、企画の工夫次第で新たな集客が可能であることを示すものとなった。この反響をどのように受け止めているか。また、今回の成果を踏まえて、今後の動物園の企画展の在り方についての見解はどうか。</p> <p>(2) 公共施設のスペースを地域団体や企業が主体となって活用できる機会を広げることで、より地域が賑わう可能性がある。他の公共施設においても、活用が充分にされていないスペースを使って地域団体や企業とのタイアップイベントの開催を考えるなど、積極的な利活用を推進すべきと考えるがどうか。</p>	<p>中村花みどり 担当部長</p> <p>鈴木財務部長</p>
6 理数系人材の獲得について	<p>本市が開催してきた「高校生数学コンテスト」は、全国から意欲ある高校生が集い、浜松に触れる貴重な機会である。初回参加者が就職期を迎える今こそ、彼らが再び浜松でキャリアを築く流れを生み出す絶好のタイミングであり、数学を強みに持つ若者が本市企業で力を発揮することで、IT人材の地元定着や全国からの人材流入につながる可能性がある。単なる競技イベントとして終わらせるのではなく、企業・行政が連携し、理数系人材の育成から就職までを結ぶ仕組みとして発展させることが重要であると考える。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) これまで4回行われてきた「高校生数学コンテスト」の成果はどうか。また、参加した高校生達からの評価はどうか。</p> <p>(2) 数学コンテスト出場者へ継続的に本市企業の紹介やインターンシップ情報を提供する等、理数系人材の育成から就職までをつなぐ取組を検討してはどうか。</p> <p>(3) 既存企業への支援と併せて、同様の分野で活躍する企業を浜松に積極的に誘致し、理数系人材にとって魅力ある就職先を増やしていく戦略が重要と考える。エリジョンのようなIT企業を積極的に誘致することの必要性についての見解はどうか。</p>	北嶋産業部長